



2026年5月14日

各 位

会社名 株式会社 駅 探
代表者名 代表取締役社長 菊井 健大
(コード：3646 東証スタンダード)
問合せ先 取締役 島田 零三
(TEL. 03-6367-5951)

通期連結業績予想と実績値の差異および特別損失（固定資産の減損損失） の計上に関するお知らせ

2026年1月30日に公表した2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）の通期連結業績予想と実績値に差異が生じたのでお知らせいたします。また、本日開催の取締役会にて、2026年3月期において特別損失（固定資産の減損損失）を計上することについて決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

1. 2026年3月期通期連結業績予想と実績値の差異

（1）業績予想と実績の差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A) (2026年1月30日公表)	百万円 2,961	百万円 △58	百万円 -	百万円 -	円 銭 -
2026年3月期実績 (B)	2,992	△16	△12	△368	△78.09
増減額 (B-A)	31	41	-	-	-
増減率 (%)	1.1	-	-	-	-
(参考) 前期実績 (2025年3月期)	3,499	116	161	57	12.15

（2）差異が生じた理由

2026年3月期におきましては、当社が注力事業領域と定めるインバウンド市場での早期収益化を図る観点から、協業を進めるインバウンド向け事業会社へ営業支援を提供することで収益獲得に貢献したこと、また、インターネット広告を手掛けるプラウドエンジン株式会社およびシステム受託開発事業を行う株式会社サイバネットが積極的な営業展開により年度末における好調な増収増益を達成したことで、売上高ならびに営業損益が業績予想を上回りました。

また、業績が低迷する中、固定資産に係る減損会計の要否を検討する時間を要することから公表を見送っていましたが経常利益以下の項目につきましては、減損損失が確定いたしましたので、上記のとおり公表いたします。

2. 特別損失（固定資産の減損損失）の計上

（1）特別損失の内容

当社の主たる事業の一つである乗換案内サービスは、インターネット社会の進展、各種技術革新による情報活用方式の多様化に伴い、収益環境に変化が生じております。

一方、当社が有する国内メディア基盤の需要は大きく、今後も適切な改修を行うことで資産価値は高まり、新たな収益機会を継続的に創出することが可能であると認識しております。しかしながら、各種施策を実施して持続的な成長の道筋を確立するには多少の時間を要することとなります。

このような事業環境の下、今後の事業計画を保守的に見積り、着実な着地を目指す観点から、固定資産に係る減損損失315百万円を特別損失として計上いたしました。これにより同固定資産に係る減価償却費の負担は2027年3月期以降発生いたしません（2026年3月期の減価償却費は84百万円）。当該減損損失の中には、子会社である株式会社音生に係るのれん27百万円も含まれており、これは同社事業の将来性、収益規模を慎重に精査した結果、当初想定していた収益が見込めなくなっており、特別損失として処理するものであります。

今後は取組中の事業構造改革を遅滞なく進め、収益性向上と事業計画を上回る利益成長を目指してまいります。

（2）業績に与える影響について

特別損失の計上による業績への影響につきましては、本日公表の「2026年3月期決算短信〔日本基準〕（連結）」に反映しております。

以上